

事變を醸出し、社會不安は停止する時を知らない。

然るに、既成支配階級は、この時局に對して、そのよつて來る原因を究めず、單に「非常時」なる名の下に、國民大衆の緊張と犠牲を強要する。即ち、彼等は資本主義の矛盾と不合理を蔽ひ隠くしながら、そのために起り來る結果に對して、大衆の犠牲的協力を強要するものであつて、かゝる「非常時」對策と宣傳は、國民、國家或は民族の名を以てするも、究極に於ては、死滅すべき資本主義と既成支配階級の延命を策するに過ぎない。

我等は、かゝる「非常時」對策の一切に對して常に批判的態度をとる、我等は勤勞大衆の政治的自由、大衆生活の安定、國際關係の合理化を直接の目標として、更に、進んでは、資本主義の矛盾の除去を究極の目標として、そこに、非常時對策の基準を置くものである。この態度は、今後、社會的變動の急速なる推移展開を通じて、終始變るものでない。

二、現下の政治、經濟的動向

今日の資本主義日本の政治的動向は一見異常變則的な觀を呈するが、しかし、これを世界的情勢から觀るときは、没落に瀕せる資本主義たる帝國主義時代の政治の一段落——即ち、ファツズムの過程であつて、政黨内閣、舉國一致内閣、軍部政權等の形式の如何にかはらず、恒常的性質を

有するものである。その政權の形式は、その時々、時局の急迫性に應じて生ずる支配階級層内の勢力結合を反映するものに過ぎない。従つて、日本資本主義の延命の必要に應じ、その特殊性を巧妙に把みつゝ、デモクラシー的ツェールを棄て、強權獨裁の途を進む所に、今後の政治的動向がある。他面最近の經濟的動向を觀るに、資本家階級は、昔では、緊縮、消極的デフレーション政策をとり、そして今日では、放漫、積極的インフレーション政策をとり、資本主義の行詰りを打開せんとするが、一向に効果をもたらさない。デフレーション政策は産業合理北を刺戟して、解雇と賃銀値下げによつて、またインフレーション政策は、物價吊上げと實質賃銀の切下げによつて、大衆の生活を急迫に陥れ、共に、恐慌を深刻化せしめてゐる。かくて、共に、恐慌による犠牲を大衆に強要しながら更に矛盾を擴大せしめてゐる。

三、資本家階級の勞働對策

『非常時』局は、國民大衆に階級協調に國家國民主義意識を強要する。だが、今日の資本家階級はファツショ政治とインフレ政策による重壓を強行すると共に、勞働階級に對しては、直接的に、統一的攻勢の態度を以て臨みつゝある。

昔ての勞働組合法反對運動を契機として結成された全國産業團體聯合會は、その更に陣容を統一